

# 積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和3年5月21日 No. 8. 5 文責：佐野紳二

SDGsの話はだいぶ長くなってしまいました。なので、**その3**は紙面での発行はせず、ホームページへの掲載のみとしました。興味をもち、このページをご覧ください。ありがとうございます。〈\_ 〉

## SDGsって、何？ **その3** 1つ1つの目標をもう少し細かく見てみよう

今号では1つ1つの目標を見ていきたいと思います。まずは目標1～6です。

### 1 貧困をなくそう

- ・世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせることを目標にしています。全世界で7億8300万人が今でも1日200円未満で暮らしているそうです。



### 2 飢餓をゼロに

- ・子どもからお年よりまですべての人が、栄養のある十分な食事を摂れるようにすることを目指しています。世界には栄養不良で命を落とす5歳未満の子どもが、年間約310万人います。

### 3 すべての人に健康と福祉を

- ・すべての人が健康であること、病気を予防できること、適切な治療を受けられることを目標にしています。

### 4 質の高い教育をみんなに

- ・誰もが平等に質の高い教育を受けられ、生涯にわたってあらゆる機会に学習できるようにすることを目指しています。世界には小学校に通えずにいる子どもが5700万人いるそうです。



### 5 ジェンダー平等を実現しよう

- ・女性、女子ということで差別されないようにし、すべての女性に力をあたえることが目標です。女性差別の問題は、日本でもよく報道されています。

### 6 安全な水とトイレを世界中に

- ・水と衛生的な環境をきちんと管理して、すべての人が安全な水と衛生的な環境を得られるようにすることを目指しています。水道の蛇口をひねるだけできれいな水が得られる日本では、なかなか実感できないことかもしれません。

5の「ジェンダー平等」以外は、日本では達成できていると考えていい目標だと思います。でも、こうしたことを目標に掲げなければならないということは、裏を返せば、まだまだこれらのことが実現されていない国々が、世界中には多く存在するということであり、私たちは決してそのことを忘れてはいけないと思います。



次は、目標7～12を見てみましょう。

#### 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- ・薪や炭などを燃料とするエネルギーではなく、電気やガスなどのより新しいエネルギーを、すべての人が安い価格で安定して使えるようにすることを目指しています。



#### 8 働きがいも 経済成長も

- ・自然資源が守られ、みんなが参加できる経済成長を進めること、すべての人が働きがいのある人間らしい仕事をできるようにすることを目指しています。

#### 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な経済発展を進め、新しい技術を生み出しやすくすることを目指しています。

#### 10 人や国の不平等をなくそう

- ・国と国との不平等や、国の中での不平等や格差を減らすことを目標にしています。



#### 11 住み続けられるまちづくりを

- ・すべての人が安全で住みやすい家や、水や電気など必要なサービスを得られるまちや地域社会にすることを目指しています。

#### 12 つくる責任 使う責任

- ・すべての国がものをつくったり使ったりする時に、資源を無駄にしないようにすることが目標です。

日本をはじめ、先進国と呼ばれる国々が取り組んでいるのが、この7～12の目標だと思います。(違う角度から見ると、このように先進国の企業が取り組めるような目標を設定したことで、SDGsが多くの国々から指示されているということもできるのかも知れません)

私たちは科学技術の発展により、とても便利な生活を享受していると言っていいでしょう。いくら「地球のため、環境を守るため」と言っても、テレビや自動車、スマホ等を使って生活している今の暮らしを捨て、それらの全くない生活をするのは難しいでしょうし、現実的だとは言えません。(明日からいきなり江戸時代の庶民のような暮らしをと言われても、私にはできるような気がしません。恐らく、多くの方はそうなのではないかと思います)なので、今の生活の質(Quality of Life)を落とさず(あるいは、さらに向上させつつ)、環境への負荷を減らしていこうというのがこれらの目標です。

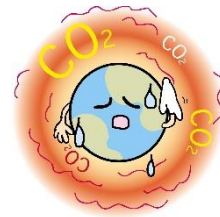
世界中の多くの企業もSDGsの実現に向けた取組を始めています。

1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)にてアナン国連事務総長が提唱し、2000年に国連グローバルコンパクトが発足されました。これには、世界160カ国で1万3000を超える団体(そのうち企業が8000を超える)が参加し、日本でも大手企業を中心に加入が増えており、持続可能な世界を実現するための世界的な枠組となっているそうです。また、「持続可能な開発のための世界経済人会議」には約35カ国、約200社のグローバル企業が参加し、「持続可能な開発目標CEO向けガイド」「より良きビジネス、より良き世界」という2つの報告書を出版しました。これらの報告書ではグローバル目標を達成することで、食料と農業、都市、エネルギーと材料、健康と福祉の4つの分野で少なくとも年間12兆ドルの市場機会の価値を持ち、2030年までに3億8000万人近い雇用を新たに創出するという試算を発表しています。(随分難しい話になってしまいました。すみません。)

最後は、目標 13～17 です。

### 13 気候変動に具体的な対策を

- ・地球温暖化の問題や、気候変動が原因の自然災害に対する備えの強化に、すぐに取り組むことを目標にしています。



### 14 海の豊かさを守ろう

- ・海洋汚染を減らすこと、海の環境を破壊する違法な漁業をなくし、海洋資源を持続可能に利用できることを目指しています。

### 15 陸の豊かさも守ろう

- ・陸上の生態系を守り、再生し、持続可能な方法で利用することや絶滅危惧種を保護して生物多様性を維持することを目標にしています。

### 16 平和と公正をすべての人に

- ・すべての人が司法を利用でき、地域・国・世界のどのレベルにおいても実行される、公正な制度をつくることを目標にしています。

### 17 パートナーシップで目標を達成しよう

- ・目標 1 から目標 16 まで、すべての国が協力し合い、政策の中に SDG s を取り入れ、目標達成のための行動や方法を強化することを目指しています。



13, 14, 15 と環境に対する取組目標が示されています。

それぞれの問題にはさまざまな要因が複雑に絡み合っており、一概に「こうすればよい」という解決の方法を見出すのは難しいようです。しかし、地球温暖化の問題にしても、海洋汚染や絶滅危惧種の問題にしても、「今のまま、何もせずに放置しておいてもいい」という問題ではなく、私たち一人一人が「できることから何かを始めなければならない」ことは、間違いのないことだと思います。

子どもたちが大人になる 20 年後、30 年後、あるいはその先の未来。私たちが住むこの地球は、どんな姿になっているのでしょうか？我々の年代は、いわゆる「バブル期」と呼ばれる、日本の経済が大きく発展した時期を経験してきた年代で、(そのころはまだ環境問題という言葉もなかったように思います。日本の各地では「公害」と呼ばれていた大気汚染や海洋汚染が問題となっていました) ある意味、科学技術の発展の恩恵を享受してきました。そうした私たちの「贅沢」が、次世代の子どもたちの時代に「ツケ」となって返ってこないよう、少しずつでも「できること」をしていかなければ…そんなことを思っています。世界規模の大きな取組はできなくても、ほんのちよつとの「行動」で地球の未来を変えることができるかもしれない…今回、SDG s のことを調べてみて、改めてそんなことを感じました。

### こんな動物も絶滅危惧種！



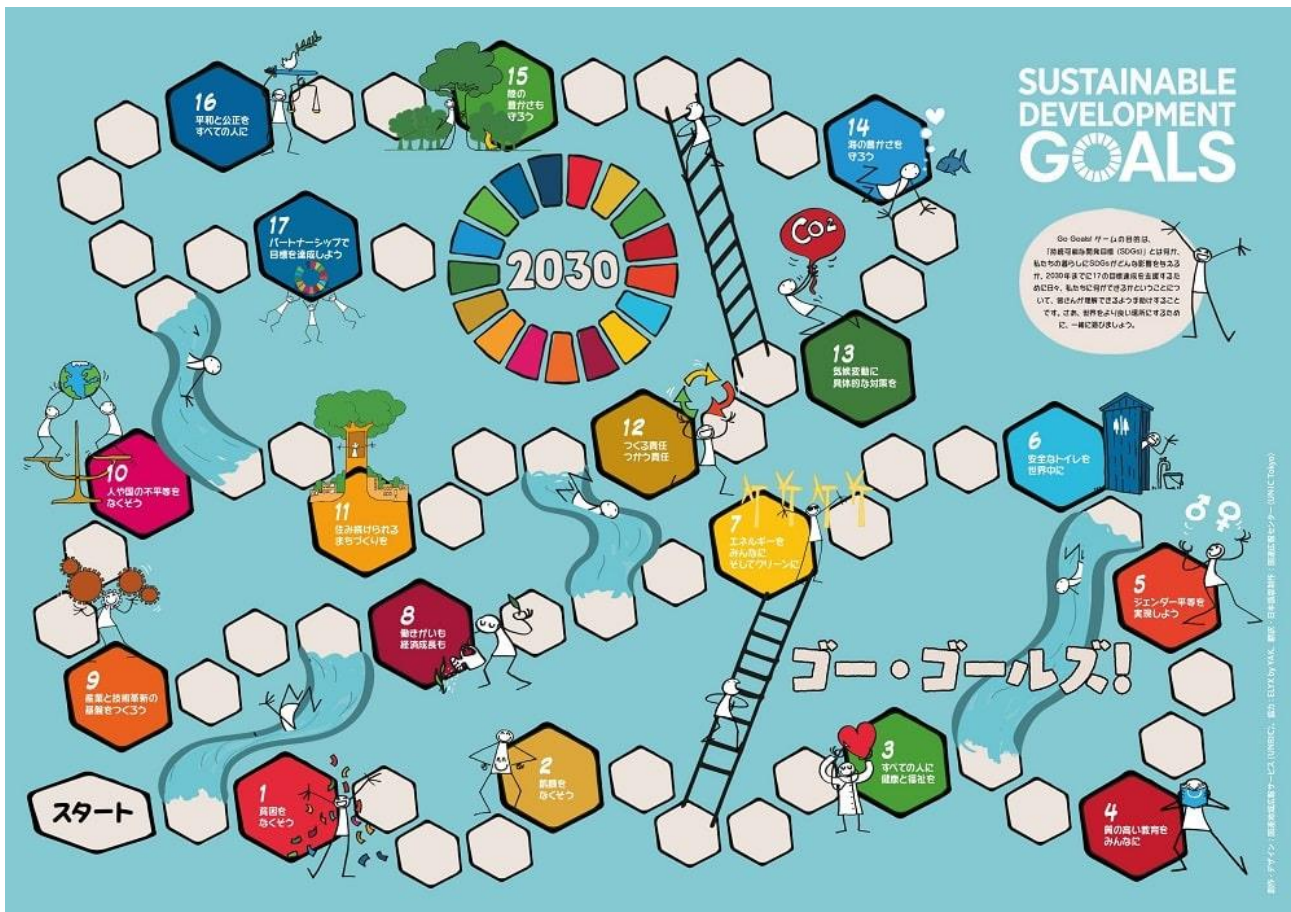
動物園の人気者として有名なこれらの動物も、みんな絶滅危惧種に指定されています。



## 最後にちょっと 楽しみながらSDGsを学ぼう！

SDGsに関わる資料を探していたら、国際連合広報センターのホームページで、「SDGsを題材にしたすごろく」というのを見つけました。我が家でやってみたくとも思いましたが、きっと受験生の娘は相手にしてくれそうもないので（かと言って、妻と二人でやるのは余りにもさみしい気がしますので…）みなさんに紹介することにしました。

興味があったら、印刷して楽しんでみてください。もし「うちでやってみたよ！」なんていうご家庭がありましたら、感想をお聞かせいただければ幸いです。



Google や Yahoo で「ゴゴールズ」で検索すると、国際連合広報センターのホームページ上で上にあるすごろくが見つかります。コマやサイコロ、遊び方も掲載されています。

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/go-goals/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/go-goals/)